

パシリスの原型はウエルデルタである。元はピアノ用のフルコン・メカを応用したL字型のバネ構造を基礎として、このウエルフロート・メカを三角形のベースに3基搭載してインシュレーターとしたものである。

始めに少し繰り返しになるが、パシリスIIについて簡単に復習しておくことにしたい。

三角形のウエルデルタ・パシリスIIについては前回の198号でも紹介しているが、引き続きその威力を検証してみたい。というの、ひとつにはこれまでずっとソースにはCDを使ってきたが、本格的にストリーミングを使うようになったのでそこをよく聴いておきたいということ。もうひとつは、ストリーマーなどにはコンパクトなものが多いので、パシリスIIの1個使いをきちんと試してみたいということがあった。今回はそういう方向で聴いてみたいと思う。

多段振り子型を採用した インシュレーターの究極形



Text by
井上千岳
Chitake Inoue

WELLFLOAT WELLDELTA Basilis II

インシュレーター (2層多段振り子構造)
¥110,000(1個/税込)

Specifications

- 設計: 小型ウエルフロートメカ 6機(3機 × 2層)内蔵
- 材料: ステンレス、アルミニウム
- 耐荷重: 200kg/個あたり(静荷重)
- サイズ: 幅155mm、高さ40mm
- 質量: 1.2kg
- 取り扱い: ジークレフ音響(株)



Grand Prix

振り子が1段から2段へと進化 4人の評論家が体験する “パシリス”マークIIの魅力

独自の「吊り構造」を採用した究極の振動対策ウエルフロート・シリーズの最高峰インシュレーター「ウエルデルタ パシリス」がマークIIへと進化を遂げた。最大のポイントは重力波の検出にも用いられている振り子構造を従来の1段から2段にしたこと。最高峰オーディオボード「WELLFLOAT Double 4548」の技術を余すところなく投入したモデルとなっている。スピーカーやオーディオラック等のスパイクベースとして、あるいはハイエンド・アンプや各種プレーヤーのグレードアップアイテムとして、さらには1個使用することで、コンパクトなシステムにも適合するなど幅広い用途提案ができる。前回の本誌198号でデビューしたこの「WELLDELTA BasilisII」は、絶大な評価を受けて本年度のオーディオアクセサリ銘機賞2026にて最高栄誉の“グランプリ”を受賞した。本項では井上千岳氏、小原由夫氏、山之内 正氏、角田郁雄氏が様々なシステムで効果を体験。その魅力をレポートする。



従来モデル(写真左)と「Basilis II」(写真右)。見た目でも1段から2段になったことがわかる





小原由夫氏と山之内正氏はB&Wのスピーカー「802D4」のスパイクベースとして使用。1段式と2段式を比較試聴した

途端に低音の立ち上がりにスピー
ド感が付き、ウーファーの制動力
がさらに上がった感じになった。
まるでパワーアンプのダンピング
ファクターが高まったような印象。
音像定位は安定してくつきりと迫
り出し、足元がふらつかない。ベ
ースラインの克明さと解像感のア
ップが半端ないのだ。インシユレ
ーターの効果で低音が一段と深く
伸びる経験は何度もあるが、解像
力が上がり、ベースラインのピツ
チが克明になったように聴こえた
ことはそうそうない。
吊り構造による多段振り子の仕

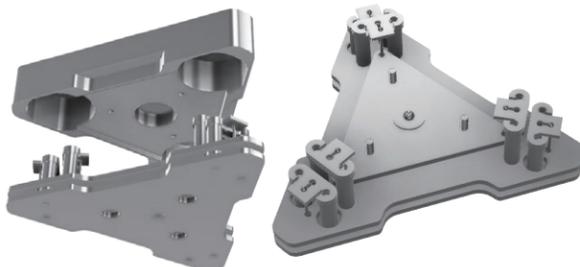
床やラックを介して伝わる不要
振動は音像のじみや歪など様々
な形でオーディオ機器に悪影響を
及ぼし、再生音の純度が低下する。
その不要振動を独自の振り子構造
メカによって水平方向の動きに変
換し、オーディオ機器を有害な振
動から解放するのがウエルフロ
ー

前後方向の定位の精度が向上 瞬発力や微細な情報も高まる



Text by
山之内 正
Tadasbi Yamanouchi

●B&W「804D4」に使用
組みは、いわばジークレフ音響の
シンボリックなメソッド。そこに
ハイエンドオーディオ機器との組
合わせに配慮したデザインが採り
入れられれば、最早鬼に金棒。私
も自宅システム導入を検討したい。



「BasilisII」の内部構造。アルミ削り出し筐体とステンレスベースで構成され、新開発の3機x2層のウエルフロートメカを搭載する



井上千岳氏はブルーサウンドのストリーミングプレーヤー「[NODE ICON]」の下に1個設置して、1段式と2段式を比較試聴した

●ブルーサウンド「[NODE ICON]」に使用 従来モデルにはなかった より深い静寂感を再現

この時点ではカバーのないスタ
ンダード・バージョンだったが、
その後中村史郎氏のデザインによ
ってアルミ削り出しのトップポー
ドを加えたスペシャル・バージョ
ンが登場。これがウエルフロート
・メカを、2段に重ねた構造で
ある。「パベル」に始まる多段振
り子型で、ウエルフロートの場合
1段増すごとに計算上は除振比が
1万分の1になる。2段だと1億
分の1ということになり、1段の
パシリスと比べてさらに1万分の
1という結果が得られるわけであ
る。

ブルーサウンドのストリーミン
グプレーヤー、NODE ICON
Nの下にパシリスIIを1個セット
して、ストリーミングで聴いてみ
ることにした。幸いこれまでCD
で試聴していたのと同じソースが
Qobuzでも聴けるので、それ
を使用する。ただしこれも24ビッ
ト96kHzないし192kHzのハイ
レゾ音源なので、それがどう出て
くるかが焦点である。
これにはちょっと面白い現象が
見られた。まず乗せた直後はあま
りパツとしない。というより音が

減ってしまったような感じがした
のである。これは逆効果かなと思
ったが、そのまま乗せておいた。
するとしばらくして、妙に周囲が
しんとしていることに気がつい
た。静寂感が異様なほど高まり、
音数は元に戻って今度はデイベ
ルの起伏が大変繊細に鮮やかに聴
こえる。

多分機器となじんだのである。
インシユレーターなどにはこうい
うことがよくある。そして一度な
じむと、後はひたすら静かさが深
まってゆく。エレクトロニクスの
場合は、こういう具合に利いてい
くものなのだと納得したのである。
音が出てまず感じたのは静かさ
である。静寂感が深い。微振動ま
で消えてしまったようなしんとし
た空間がある。これがいままでの
パシリスにはなかった違いで、そ
こから音楽の再現性に色々な変化
が生じてくるのである。

パロックでは低域が深いところ
まで伸びやかに沈んでゆくのわ
かる。チェロやヴィオローネ、テ
オルボなどが、それも重々しく
沈むのではなくすると引つかか
りなく伸びている。また遠近がわ
かりやすく、立体感もつと明瞭
だ。音場空間の中に、ヴァイオリ
ンやチェロ、チェンバロなどが点

在して、その前後や距離感がよく
見える。ここまでの立体感があつ
たかと思つて試しにCDも聴いて
みたが、ストリーミング特有のも
のようである。

しかしそれがパシリスIIになつ
てはつきりわかるようになったの
も事実で、ハイレゾ音源の意義と
いうものがより確実に引き出され
てきたのを感じるのである。

ピアノも低音部の実在感が高
い。底の方までじみや濁りがな
いだけでなく、その響きが高密度
なのだ。肉質感が高い。タッチが
太く芯が強く骨格が明確で音楽の
存在感ががっしりとしている。重
い軽いということではなく、目が
詰まっているということである。

コーラスのハーモニーが厚手で
しかも軽快なのは言うまでもなさ
そうだ。これはノイズが激減して
いることの現れで、空間を満たす
余韻の量が歴然と違う印象である。
オーケストラは鮮烈さが際立つ。

ディテールがいていねいに拾い上げ
られて、小さな凹凸まで明快な起
伏を見せる。弾みがよくなったよ
うにも感じられるが、それも微小
な信号から汚れが消えたためであ
る。

1万分の1と1億分の1の違い
というのはこういうものかと考え



Text by
角田 郁雄
Ikuo Tsunoda

●テクニクス「SL-1000R」に使用
演奏の空気感や微細な音を
さらにリアルに引き出す
ウエルフロートのアイテムは用
途に応じた選択の幅が実に広い。
同社の吊り構造は、設置する機器
の振動を低減するだけでなく、
床振動から機器に伝わる振動まで
低減させてしまう。それは実際に
使用すればすぐさま分かる効果で
ある。そのシリーズから独自の振
り子構造が1段仕様から2段仕様
に進化した「ウエルデルタ・パシ
リスII」が発売された。

まず、ハイエンド・インシユレ
ーターらしい精密感のあるデザイ
ンがいい。仕様としては、ウエル
フロート・ダブル4548の技術
を投入していることが特徴。筐体
自体もアルミとステンレスの異種
金属の組み合わせで不要共振が発
生しない。
内部には新開発の3基x2層の
ウエルメカがあるのだが、実際に
テクニクスのアナログプレーヤー、
SL-1000Rを使いその脚部
4点の下に1段式、2段式の順に

2段は明らかに次元が違う 低域の向上度が半端でない



Text by
小原由夫
Yoshio Obara

●B&W「804D4」に使用
ステンレスとアルミニウムを組
み合わせ、免振構造の小型ウエル
フロートメカを採り入れた振動対
策アイテムが2層構造になったか
らといって、果たしてどれほどの
改善効果のアップがあるものか、
試聴前は半信半疑でしかなかった
のだが、音を聴いてその改善度合
いに心底たまげた次第だ。

試聴はB&W802D4のスパ
イク脚部に1段と2段構造のウエ
ルデルタ・パシリスを入れ替えて
比較したのだが、1段タイプでも
十分な効果が実感できたのに、2
段タイプは明らかに次元が違う。
付属スパイクから1段タイプに
交換した段階で、S/Nの向上と
音像定位の明瞭度アップは実感で
きた。低域は淀みなく深く伸びる。
それがどうだろう、2段にした

設置して、その違いを聴き比べて
みた。1段式も絶大な効果なのだ
が、2段式は一聴して明らかに音
像にブレがなくなるのがわかる。
それどころか演奏の空気感や微細
な音がさらに引き出されてきて、
システム全体がさらにアップグレ
ードされたかのような感覚になる。
音の透明度にも差がある。ダイナ
ミックなドラムスや低い音階のベ
ースの響きはさらにリアルに聴こ
えてくる。再生機器の持ち味をさ
らに鮮明にしてくれる。これは一
旦使用すると手放せないハイエン
ド・インシユレーターである。



角田郁雄氏はテクニクスのアナログプレーヤー「SL-1000R」の脚部4点の下に設置。1段式と2段式を比較試聴した

